

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成27年9月17日 NO.50 (250)

1年生 「モンタ博士！クワガタを見てください。」

モンタ博士 「ほほー。これはコクワガタかな、

いやいやこれはヒラタクワガタだね。」

1年生 「わたしたちが見つけたんです。それで、

見てもらおうと思って持ってきたんです。」

モンタ博士 「それはうれしいね。それじゃ、今日はクワガタをよーく観察してみよう。

まず、クワガタを取り出してみよう……。」

1年生 「あ！いたい！いたい！クワガタって、つめがとてみたいです。」

モンタ博士 「ほ！いまなんて言ったの？つめがいたい？それでは、どうなっているか

みんなで見てみよう！」

1年生 「クワガタの足にはギザギザがいっぱいあるし、先はフックのようになっている。」

モンタ博士 「そのとおりだね。どうしてフックみたいになっているのかな。」

1年生 「クワガタは木に登るから、フックみたいなつめがあるんだ。」

モンタ博士 「そのとおりだね。チョウはどうか。」

1年生 「ギザギザもないし、フックもないです。」

モンタ博士 「チョウは、体が軽いし、花にとまるだけ

だから、そんなものいらんないのさ。昆虫

の体ってうまくできているね。それじゃ、

ついでにバッタの足はどうか。」

1年生 「うーん。バッタの後ろ足って、めちゃくちゃ曲がっていますね。」

モンタ博士 「では、どうしてそんなに曲がっているのかを考えてもらおうよ。」

1年生 「ふーむ。むずかしいなあ。どうしてかな。」

モンタ博士 「そうだね。それでは、自分がジャンプするときどうするかを考えてみてごら



アオスジアゲハ
(友人の昆虫研究家
坪池淳氏の絵転載)

ん。ひざっこぞうをどうする？」

1年生 「そうですね。ひざっこぞうを曲げます。その方が高く遠くへとべるもん。」

モンタ博士 「ひざっこぞうを曲げるということは、足を三角にするということだ。でも、どうしてバッタなどはそんなことをするのだろうね。」

1年生 「どうしてかなあ？バッタは、とびっこをして楽しんでいるのかな。」

1年生 「とびっこして記録を出したりするのは、オリンピックみたいですね。」

1年生 「バッタのオリンピックなんてこと聞いたことがないよ。」

モンタ博士 「ちょっとむずかしいけど、バッタはなぜ生きているのかを考えてごらん。」

1年生 「ふーん。むずかしいなあ。ひょっとして、仲間をふやすためかな。」

モンタ博士 「そのとおりさ。でも、だれかにつかまって食べられちゃったりするね。」

1年生 「そうか！鳥とかに見つかったら食べられちゃうね。」

1年生 「そうか！見つかったら遠くとんで、すぐに逃げられるためなんだ。」

モンタ博士 「よく気がついたね。そのとおりだね。ここで面白いお話をしてあげよう。」

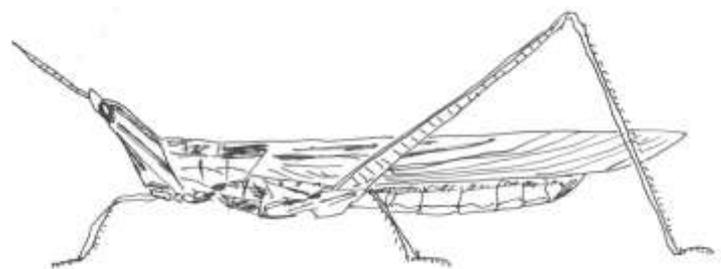
それはね、バッタはどのくらいとぶかということさ。」

1年生 「バッタはとても高く遠くへとびますね。」

モンタ博士 「それをね、人間と比べて考えてみよう。ここに3センチのバッタがいたとしよう。そのバッタが60センチとんだとしよう。本当のバッタはもっと遠くへとぶかもしれないけど、3センチのバッタが60センチだろう。体の大きさの20倍とぶということはすごいね。1mの子供だったら、20mもとんでしまうわけだ。こりゃオリンピックに出たら、新記録まちがいなしだよ。」

1年生 「へえー。すごいな。バッタってすごいな。虫ってすごいんだな。」

モンタ博士 「虫の足がどうなっているか。みんな形にはわけがあるんだ。それから、バッタはだいたい緑色をしているだろう。これも敵から見つからないためさ。つまり、虫の色にもいろいろなわけがあるということだね。」



ショウリョウバッタ